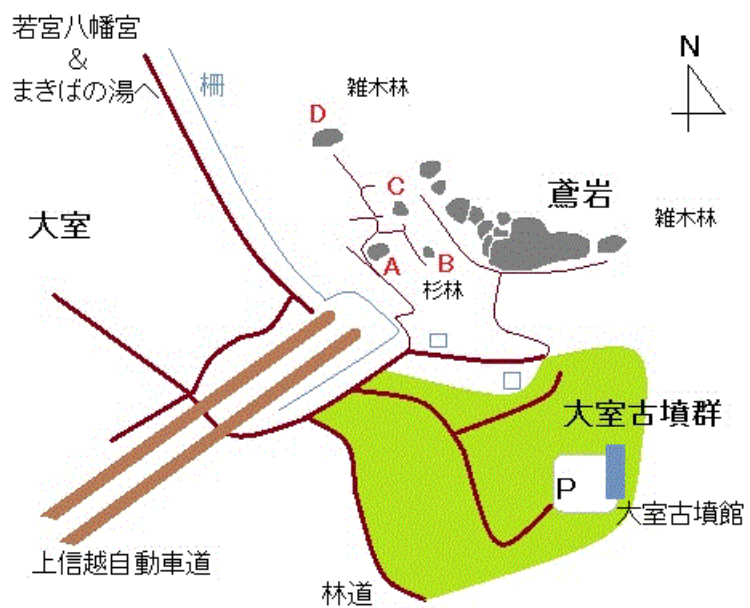


信州 長野大室・鳶岩ボルダー

20160408(再編集 20210722) rctK

定年退職後、2015年春より長野の実家で過ごすことが多く、いろいろと多忙になりクライミングの機会が激減してしまいました。特に冬季は無雪期に時々通ったボルダーが雪で完全に閉ざされ、時間が空いても行けない状態になってしまった。そこで、この状況を何とか打破するため、パートナーがいなくても遊べるボルダーで、1時間程度で行ける岩場はないかと考えてみた結果、長野周辺で冬一番暖かいと言われている鳶岩に行ってみることにした。実は以前鳶岩を訪れたとき、近くにボルダーらしきものがあつたと記憶していたからである。



果たして、鳶岩メインエリアから西側に踏み跡を少し辿ると、位置は丁度高速道路のトンネルの上あたりになるが、明るい雑木林の中に幾つかボルダーを確認することができた。中でも小さいながらも楽しめそうなハングした岩(A岩)が見つかったのが大きな収穫であった。その後再度訪れ、岩の整備を行い、課題も幾つか設定し、自分なりに楽しめるボルダーにすることができた。

シーズンとしては、冬がベストだが、上雪(カミュキ)の時はこの付近も相当量積雪があるので不可能になる。しかし冬型になって天候が回復すれば、山の南斜面なので直ぐに雪は融けてトライ可能となる。そのほかの季節も十分可能だが、標高が低いので夏季は蒸し暑く虫が多いのではないだろうか。

アクセスは簡単で、長野市の大室地区を目指し、大室古墳群を目標に行けば迷うことはない。大室古墳群へ入って行く道は2本ほどあるが、西から直線的に入る道は生活道路で狭いので、北側の「大室温泉まぎばの湯」入口方面から若宮八幡宮を通り山沿いの道から入った方が広くて安全である。

アプローチは、鳶岩メインエリア側からも行けるが、冬季は下に車を置くため、高速に沿って道路を歩いて行き、小屋の手前に小さな階段があるのでそこを上がり、小屋のある土地にできるだけ入らないようフェンスに沿って直ぐ左に入る。斜面を上がると昔の高速の作業道があるので、それを進むと直ぐにボルダー(A岩)に辿り着く。

冬季は古墳群の入口付近で車止めにより駐車場への侵入が不可となるが、車止めの手前または右に林道を少し上がった古墳の近くのスペースに駐車することができる。他の車の通行に、くれぐれも迷惑とならないよう配慮していただきたい。

ところで「鳶岩」の呼称だが、「とびいわ」なのか「とんびいわ」なのか迷ってしまうのは、私の実家の方では「とんび」と呼んでいるからだろうか。機会があつたら地元の人に確認してみたい。

大室古墳群については、総数約500基の日本最大の積石塚古墳群で全国的にも珍しいものとのこと。古墳館には、パンフレットの他、様々な資料が置かれているので、興味のある方は見学してもらいたい。トイレもあるので、クライミング前にはここで済ませて行けるので便利である。

●大室古墳館 開館時間:午前9時から午後5時

休館日:月曜(祝日にあたる場合はその翌日)、祝日の翌日(土・日を除く)、12月1日から翌年3月31日(冬期休館)

●A 岩 (仮称:ハイウェイ・ロック)

左:南面 右:東面

ハンゲ下がイノシシのヌタ場となっていたようで、平らになっており、さほど整地に時間はかからなかった。下の高速道路の音が少々気になるが、明るくてのんびりできる。



南面のハンゲの右ライン

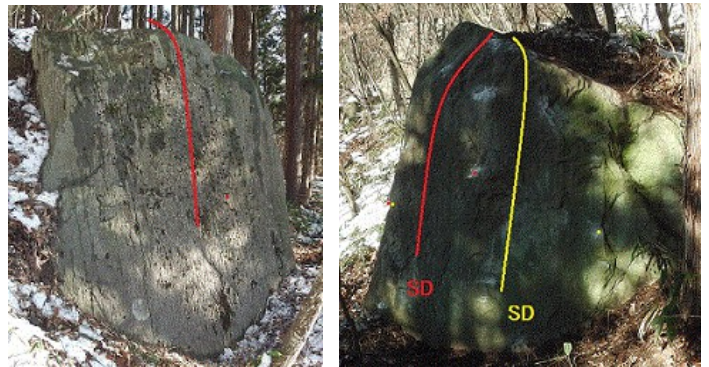
「b:大寒」は抜け口でスラブに這い上がるのがちょっときつい。左ラインは「a:小寒」。

東面のフェイスの赤ライン「c:ハイウェイ・ビュー」は黄緑のラインとスタートからホールドは共用せず、穴を使いリップに出ていく。身長差もあるとは思いますが、スタートを共用するとかえって厳しくなる。

黄色ラインのSD 課題は未解決である。新たな課題設定としては、「小寒」のスタートホールドから右フェイスの黄色ラインに入るリップトラヴァースなどが考えられる。

●B 岩

杉林との境にある小さな岩。3から4手なので、暇だったら遊んでみてください。



●C 岩

見た目は大きく目立つが、課題は易しい。たぶんウォームアップにもならないが、中央の課題は左のカンテと右ラインのガバを限定するとそこそこ楽しめる。



●D 岩 (仮称:牡丹餅岩)

雑木林の中の3~6mのハイボルダー。

下地はさほど悪くはないが、傾斜しているところがあるので、心配ならトップロープで遊んでも良い。上にアンカーはなく、上部の木から延ばしてとるため、長めのスリング(ロープの長いもの)を持参していただきたい。

ホールドが脆そうだったので、懸垂下降で掃除し、浮石を落としたが意外としっかりしていた。見た目が欠けそうなホールドも、多分大丈夫と思われるが、心配ならもう一度確認してほしい。一番左のラインの上部(クラック部分)は掃除不足で苔が多い。

主な課題としては、クラック直上「牡丹餅左」、クラック右上「a:牡丹餅右」、「b:暑さ寒さも彼岸まで」(上部でクラックに移らない)、「c:セキュリティー・ホール」(顕著な穴を取るのが核心)等がある。肩と指を故障しており、痛みに耐えながら登ったため、グレード感覚は的確ではないかもしれないが、bラインで2~3Q位かと思われる。bとcは身長差が出るラインだが、身長がない人にとっては、面白い課題だと思う。

青ライン「杏子」は、レッジから右上の木までのトラヴァース。このラインからbやcのラインに繋げると面白い課題になりそうである。

未解決ラインについては自由にトライしてもらっても構わない。

